

「ワーク・ライフ・バランス」の定義

1 「労働市場改革専門調査会第一次報告」(平成19年4月6日 労働市場改革専門調査会)

第2章 目指すべき労働市場の姿 多様で公正な働き方を保障

(1) 生涯を通じて多様な働き方が選択可能になること

ワーク・ライフ・バランスの確保

多様な働き方が確保されることによって、個人のライフスタイルやライフサイクルに合わせた働き方の選択が可能となり、性や年齢にかかわらず仕事と生活との調和を図ることができるようになる。男性も育児・介護・家事や地域活動、さらには自己啓発のための時間を確保できるようになり、女性については、仕事と結婚・出産・育児との両立が可能になる。

2 「「子供と家族を応援する日本」重点戦略検討会議各分科会における「議論の整理」及びこれを踏まえた「重点戦略策定に向けての基本的考え方」について(中間報告)」(平成19年6月1日 「子供と家族を応援する日本」重点戦略検討会議)

重点戦略策定に向けての基本的考え方

1 基本認識

(3) ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)の実現の重要性

(中略)

(ワーク・ライフ・バランスの実現)

「ワーク・ライフ・バランスの実現」とは、個人が仕事上の責任を果たしつつ、結婚や育児をはじめとする家族形成のほか、介護やキャリア形成、地域活動への参加等、個人や多様なライフスタイルの家族がライフステージに応じた希望を実現できるようにすることであり、

国民一人一人が自らの望む生き方を手にすることができる社会の実現

労働力確保等を通じた我が国社会経済の長期的安定・持続可能性の確保

の達成を同時に目指すならば、我が国社会にとって必要不可欠の改革である。

各分科会の議論の整理

働き方の改革分科会の議論の整理

2 目指すべき「働き方の改革」

(1) ワーク・ライフ・バランスの考え方

ワーク・ライフ・バランスとは、個人が仕事上の責任を果たしつつ、結婚や育児をはじめ

めとする家族形成のほか、介護やキャリア形成、地域活動への参加等、個人や多様なライフスタイルの家族がライフステージに応じた希望を実現できるようにすることである。このワーク・ライフ・バランスを実現することにより、安心して子どもを育てることができるようになるなど、将来の社会を担い、支える国民を応援する社会環境の整備を図ることが重要である。このようなワーク・ライフ・バランスの実現には、企業と労働者の双方が協調して「働き方の改革」を推進することが必要不可欠である。

3 「「ワーク・ライフ・バランス」推進の基本的方向報告」(平成 19 年 7 月 男女共同参画会議
仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)に関する専門調査会)

仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の意義・重要性

1. ワーク・ライフ・バランスの考え方

(ワーク・ライフ・バランスとは何か)

「ワーク・ライフ・バランス」とは、老若男女誰もが、仕事、家庭生活、地域生活、個人の自己啓発など、様々な活動について、自ら希望するバランスで展開できる状態である。このことは、「仕事の充実」と「仕事以外の生活の充実」の好循環をもたらし、多様性に富んだ活力ある社会を創出する基盤として極めて重要である。